

## 多磨寺跡(府中市)

多磨寺へ向かうべく大國魂神社の東側道を歩く



通りすがりに国の史跡があった



# 国史跡 武蔵国府跡

開館時間 ◎ 午前9時～午後5時  
(休館日 ◎ 年末年始)

## 武蔵国衙跡地区

- ① 建物柱立体表示…朱色(丹土色)の柱を再現
- ② 建物柱平面表示…柱の位置を赤丸で表示
- ③ 建物範囲…灰色の床(平板)で表示
- ④ 軒先雨落ち…砂利敷で再現

- ⑤ 遺構展示館 巨大な鏡…遺構展示館の巨大な鏡は、奈良時代に建てられた建物の中心に設置されています。再現した朱色の柱が鏡に写りこみ、当時の建物の大きさがわかるようになっています。(写真1)(写真2)

展示室…遺跡の概要が説明されています。(写真3)

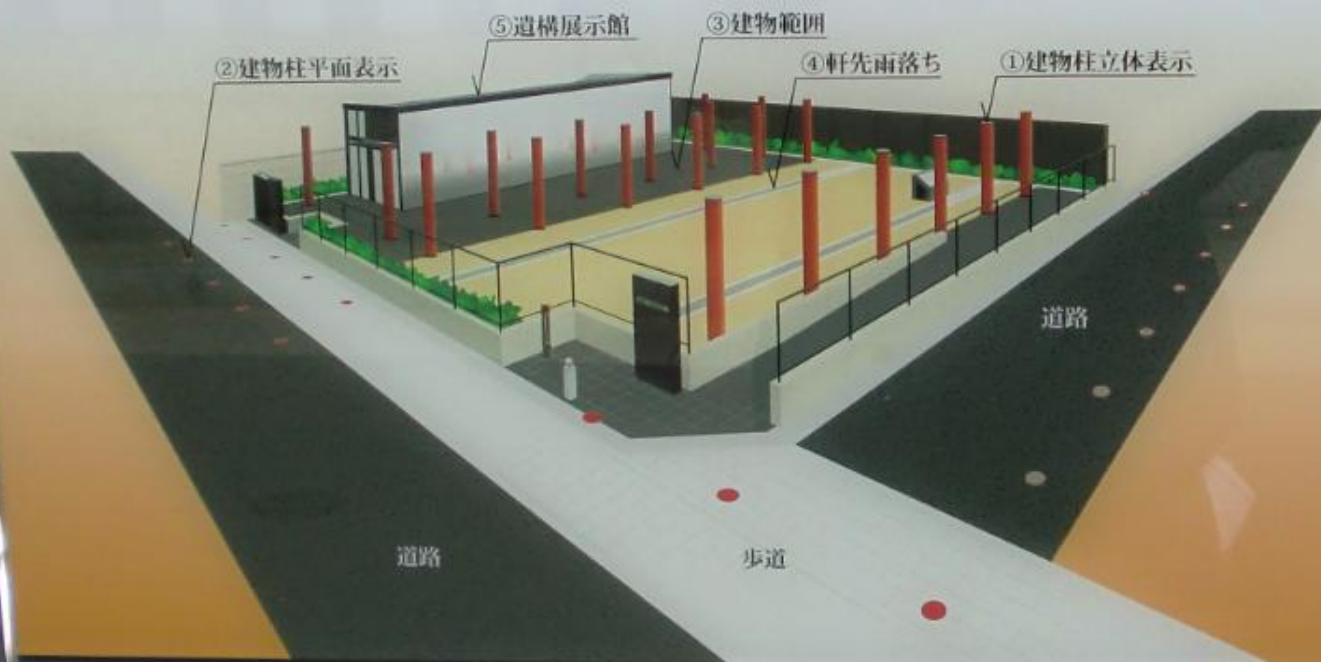


写真1



写真2



写真3

遺跡見学の方へお願い

ご利用される際の注意事項







# I この下に古代遺跡が眠っています。

# 武蔵国府跡

## 1. 国府のまち府中

府中には、奈良時代から平安時代に、武蔵国の国府が置かれていました。

## 2. 発掘調査で国府を確認

発掘調査の結果、武蔵国府の具体的な姿や国府をめぐる人々の営みが次第に明らかになってきました。

## 3. そもそも武蔵国とは

武蔵国は、現在の東京都、埼玉県のはほぼ全域と神奈川県の川崎市・横浜市の大部分を含む広大な国で、21もの郡を管轄する大國でした。

## 4. 武蔵国府とは

武蔵国の行政・文化の中心が武蔵国府です。いわば、現在の都道府県庁のある場所といえます。



関連遺跡分布図



武蔵国府の概念図

## 5. 国庁・国衙・国府とは

- 国庁とは … 国司が儀式や政治を行う中心的な役割を担った役所の中核施設をいいます。(現代でいえば、東京都庁の知事部局)
- 国衙とは … 国庁の周囲に設けられた国の行政事務を行っていた役所群をいいます。(現代でいえば、東京都庁の本庁舎全体)
- 国府とは … 国庁、国衙を含めた役所に勤務していた役人の館や、兵士等の宿舎、市、学校、百姓の民家などを含む範囲全体のこと。(現代でいえば、東京都庁周辺の新宿副都心の範囲)







灰色の地面平板が建物範囲を示す





砂利敷き部分は軒先雨落ちを示す









歩いてきた門跡方向を見る



この赤丸は柱のあった位置を示す





# 武蔵国衙跡 むさしこくがあと

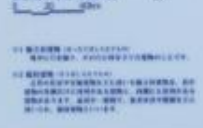
武蔵国衙跡周辺の調査状況



古代の地域区分



武蔵の国と郡域

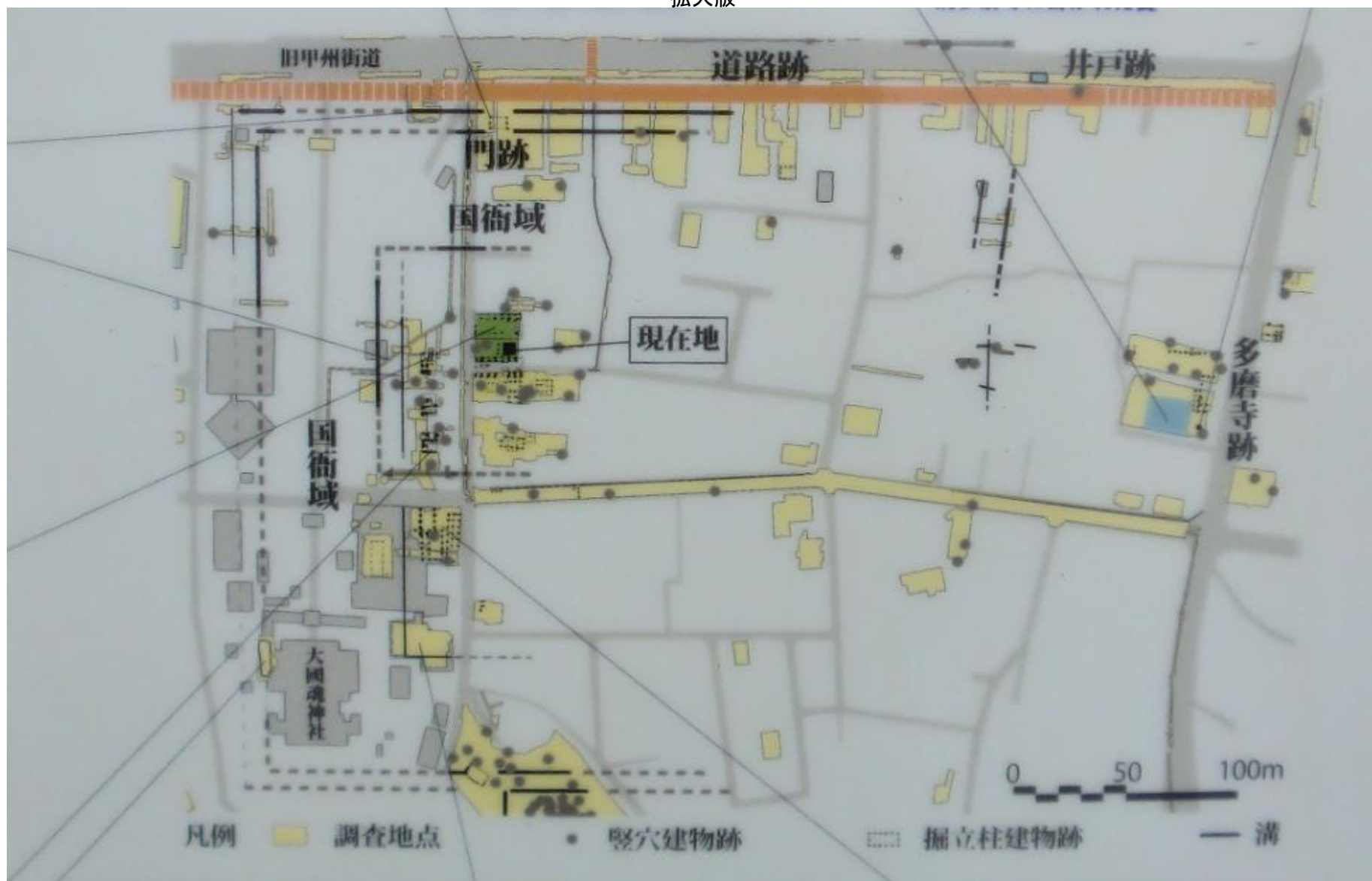


## 府中市

- ① **国府・国衙とは**  
奈良時代から平安時代の約400年間、武蔵国（現在の東京都と埼玉県、神奈川県の一部）を治めた役所の所在地を国府といい、その中枢の役所群が置かれていた所を国衙といいます。
- ② **国衙の範囲**  
武蔵国衙跡は、全体のごく一部がわかっているにすぎませんが、大國魂神社境内からその東側にかけてのおおよそ東西200m以上、南北300mに広がると考えています。
- ③ **格式の高い建物の存在**  
この建物跡周辺では、一辺30cm程度の埴が多量に出土していること

- から、埴敷もしくは埴を基壇の縁に用いた瓦葺きの格式の高い建物が存在したことがわかります。
- ④ **国衙の中枢建物跡の発見**  
この場所では、こうした格式の高い国衙の中枢を構成する建物跡が、南北に2棟並んで発見されました。
  - ⑤ **柱と床の表示**  
朱色の柱は、当時の国衙の中枢建物の柱位置を示し、床仕上（平板）は、建物範囲を表しています。
  - ⑥ **府中の地名**  
府中の地名は、この「国府の中」から生まれました。

拡大版



国衙域、多磨寺跡、門跡、井戸跡などが示されている

国史跡「武蔵国府跡」、門跡方向を見る



この角から多磨寺へ向う京所道方向を見る



京所道(きょうずどう)



この高いマンションの位置に多磨寺(京所廃寺)があった



右のマンションが建設された際に発掘調査された



正面のマンションの位置





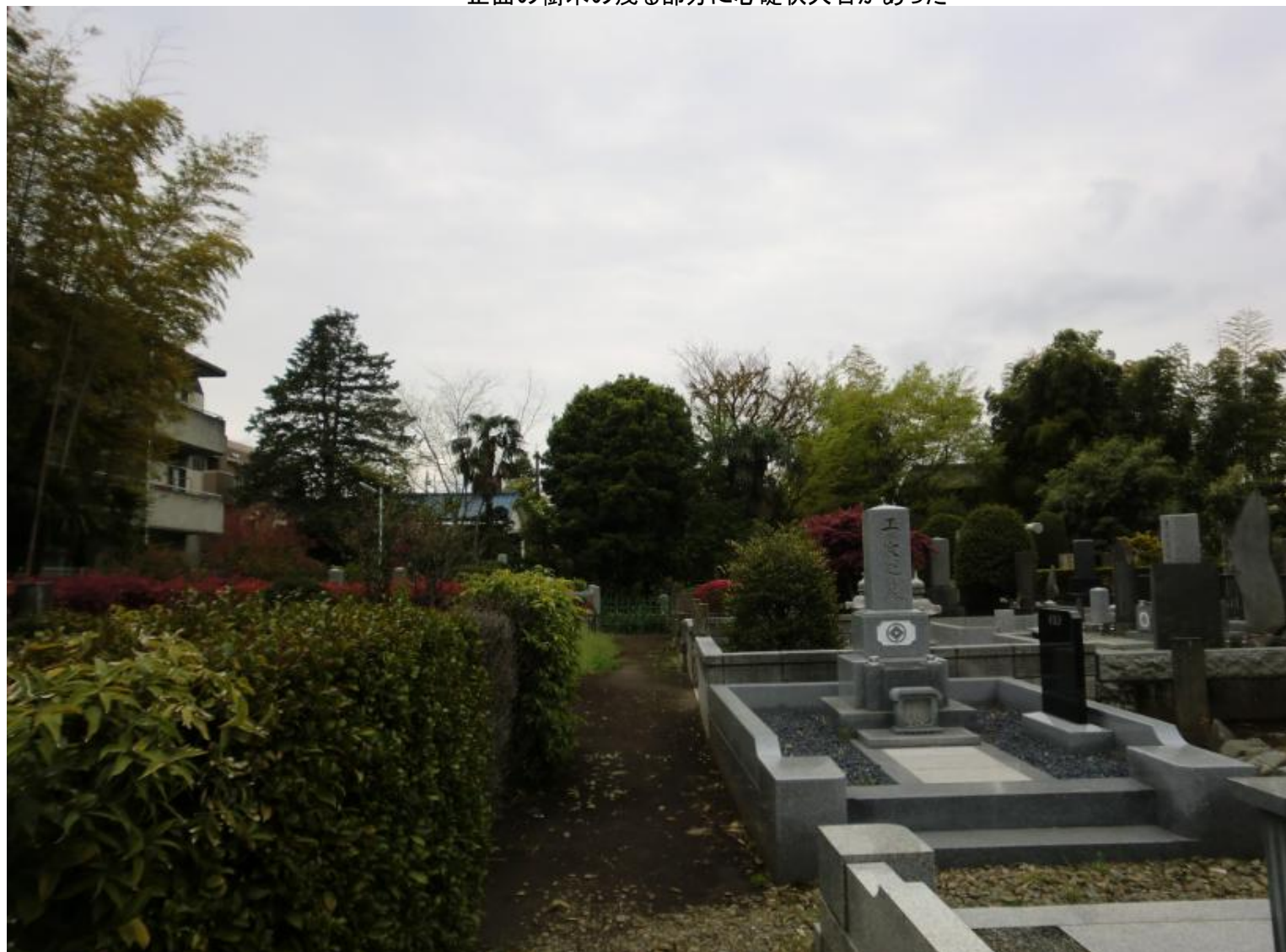
このあたり一帯に多磨寺があった



前方のマンション付近



正面の樹木の茂る部分に心礎状大石があった



折角なので大國魂神社も観る





随神門改築、齋館新築、摂社・末社改修をしているようだ

**御鎮座壹千九百年記念事業御奉賛のお願い**

風がわたり、木々がこたえる。心が澄んでいく。  
悠久の歴史を、共に歩みませんか。

御鎮座壹千九百年記念事業御奉賛のお願い

基金目標額 六億円

事業概要 随神門改築 齋館新築 摂社・末社改修

042-362-2130

大國魂神社

平成二十三年、大國魂神社は、御鎮座壹千九百年の佳節を迎えます。この年を契機に聖地の最上層、御神体の安撫を御祈念申し上げ、記念事業を実施致す次第であります。つきましては、皆様各位の御理解と格別なる御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十三年六月吉日  
大國魂神社御鎮座壹千九百年記念事業実行委員会

随神門

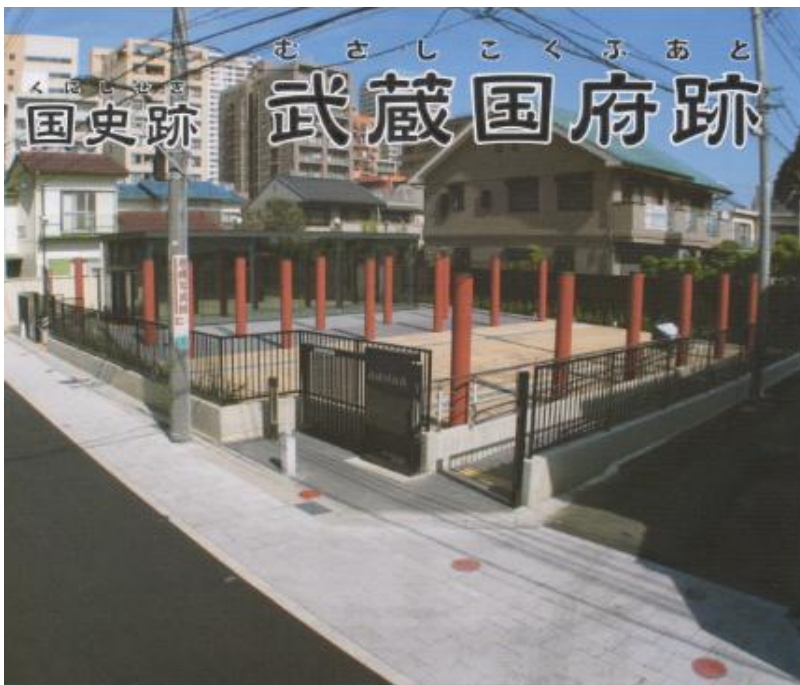






手水舎(唐破風付き)





ふるさと府中の歴史・文化遺産を訪ねて—No. 1



武蔵国府跡

武蔵国府は、奈良時代の初め頃から平安時代の中頃（今から約1,300年～1,000年前）にかけて、武蔵国を治めた役所（武蔵国庁・国衙など）が置かれた、古代武蔵国の政治・行政・文化・経済の中心でした。府中市では、多くの市民の皆様のご理解とご協力によって、国府全域を対象とした発掘調査を行ってきました。その結果、全国的にも貴重な国府の具体的なイメージと、中心部分の様相が明らかになってきました。平成21年7月には、この中心部分が「武蔵国府跡」として国史跡に指定されました。史跡整備を行った武蔵国衙跡地区と大國魂神社の社叢で、古代へ想いを巡らせていただければ幸いです。

武蔵国府跡

武蔵国府は、奈良時代の初め頃から平安時代の中頃（今から約1,300年～1,000年前）にかけて、武蔵国を治めた役所（武蔵国庁・国衙など）が置かれた、古代武蔵国の政治・行政・文化・経済の中心でした。

府中市では、多くの市民の皆様のご理解とご協力によって、国府全域を対象とした発掘調査を行ってきました。その結果、全国的にも貴重な国府の具体的なイメージと、中心部分の様相が明らかになってきました。

平成21年7月には、この中心部分が「武蔵国府跡」として国史跡に指定されました。史跡整備を行った武蔵国衙跡地区と大國魂神社の社叢で、古代へ想いを巡らせていただければ幸いです。



① 国衙—こくが

大國魂神社境内とその東側一帯に、国府の中心である武蔵国衙跡があります。その中の大國魂神社東側隣地には国衙の中核的な施設と考えられる2棟の大型建物跡が存在し、ここを『武蔵国衙跡地区』として史跡整備を行いました。

史跡整備地 武蔵国衙跡地区では、  
敷地内で建物が2棟発掘されました。

ここに  
物跡の  
路上柱



発掘で見つかった建物の柱跡（白い線）の真上に、壊さないよう柱を復元しました。

飛鳥時代

大化元年 (645年) 大化の改新が行われる。東国に国司が発遣される。  
(7世紀中ごろ) 上円下方墳(国史跡武蔵府中熊野神社古墳)が築造される。

この頃、東山道武蔵路が整備される。

この頃、多磨寺が創建される。

大宝元年 (701年) 大宝律令が制定され、国・郡・里制が施行される。

大宝3年 (703年) 武蔵国司初見(引田朝臣祖父)。

和銅元年 (708年) 武蔵国が自然銅を献上。和同開珎が铸造される。

和銅3年 (710年) 平城京(奈良)に遷都。

この頃、国府が成立。

国府の成立

奈良時代

天平13年 (741年) 国分寺造立の詔が発せられる。

宝龜2年 (771年) 武蔵国が東海道に所屬替えとなる。

延暦3年 (784年) 長岡京に遷都。

大規模整備

平安時代

延暦13年 (794年) 平安京(京都)に遷都。

承和2年 (835年) 国分寺七重塔が神火で焼失。

承和12年 (845年) 武蔵国男衾郡大領外従八位上壬生吉志福正、焼失の国分寺の塔を再建。

改修・整備

延喜19年 (919年) 前権介源仕、武蔵国府を襲撃。

天慶2年 (939年) 平将門の乱。武蔵国で国司と郡司の紛争がおきる。

治安3年(1023年) 武蔵国分寺を修造する。

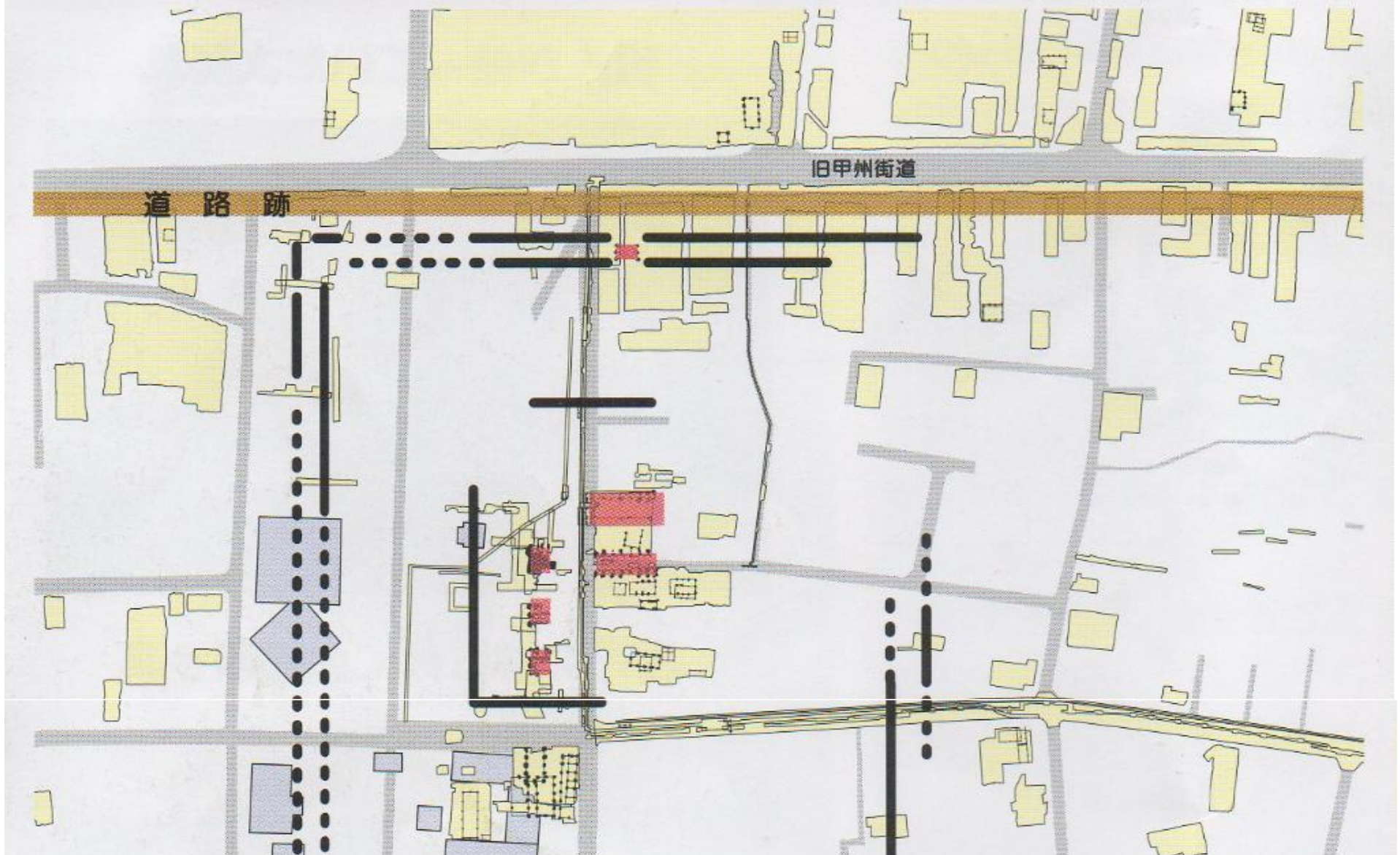
永承6年(1051年) 安倍頼時反乱、源頼義を陸奥守に任じ征伐を命令。(前九年の役)

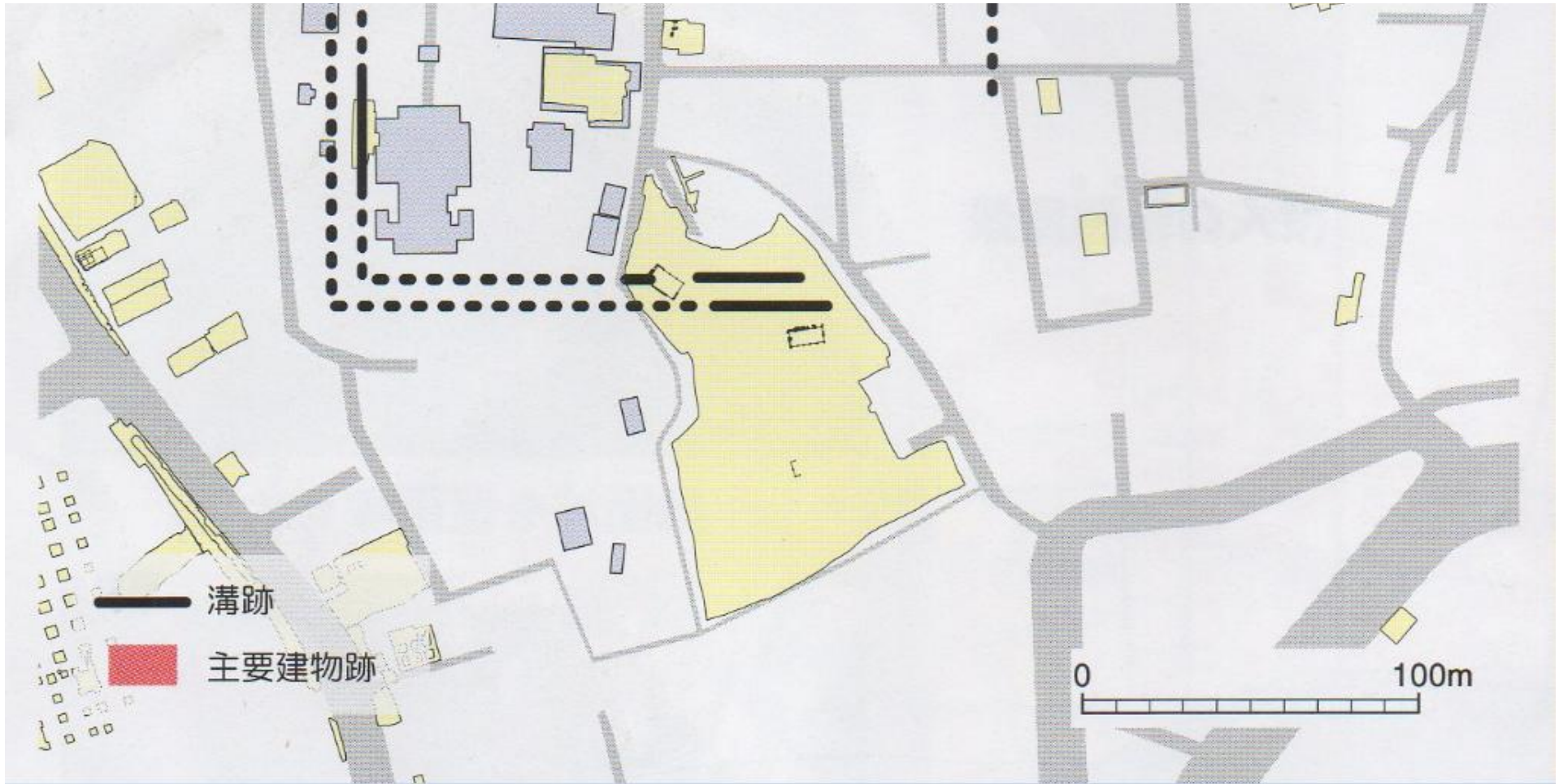
永保3年(1083年) 源義家陸奥守兼鎮守府將軍として赴任、清原真衡を援けて家衡を攻める(後三年の役)。

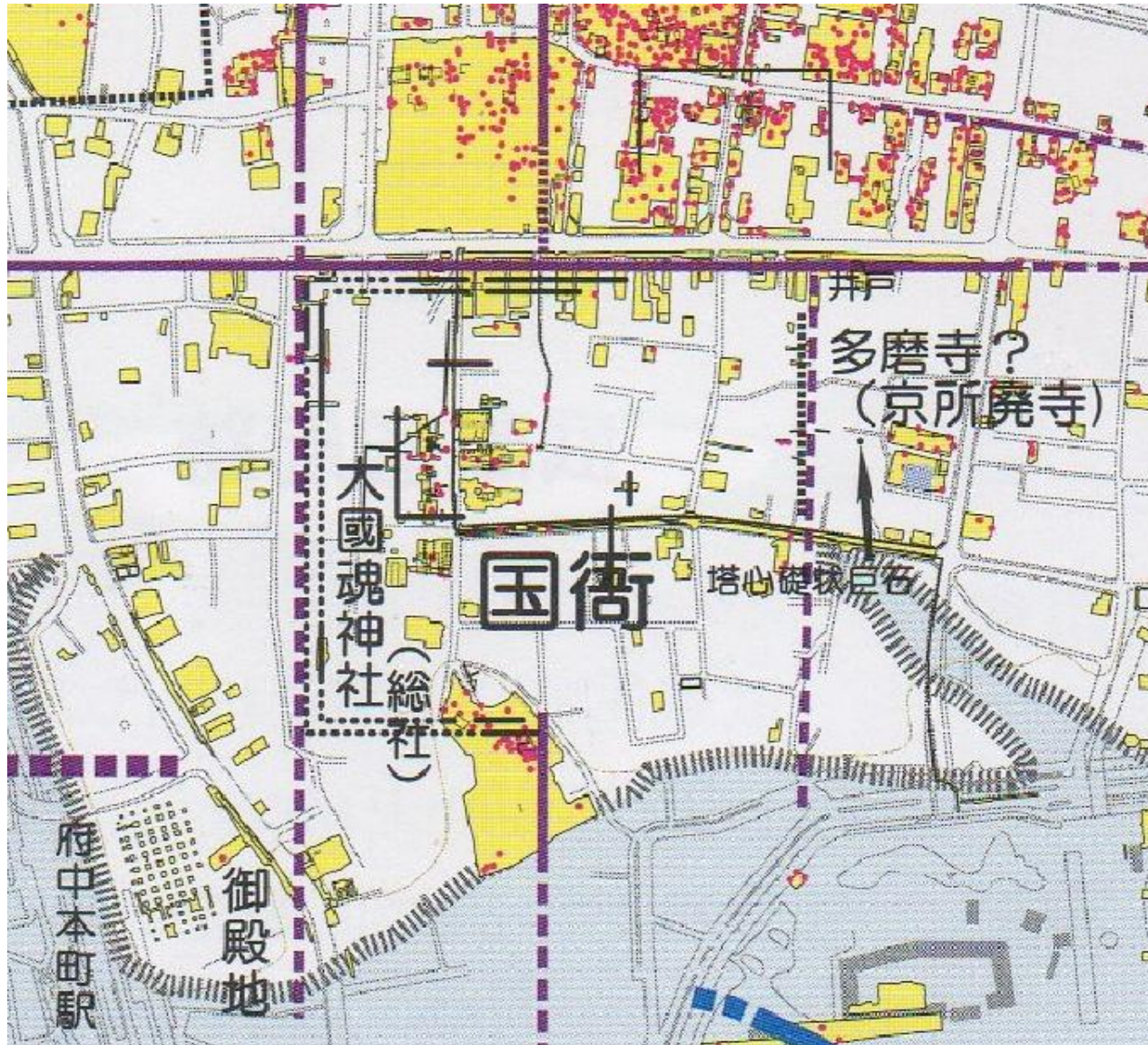
文治2年(1186年) 源頼朝、諸国の惣社・国分二寺の修造を命じる。



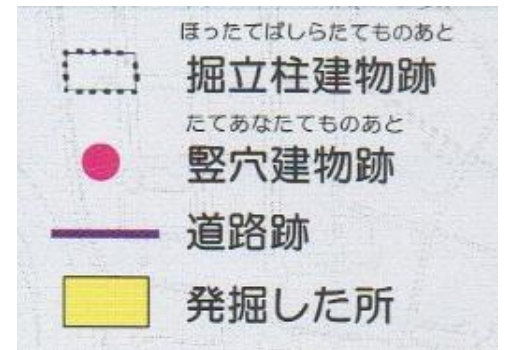
# 国史跡 武蔵国府跡付近の発掘調査成果







多磨寺(京所廃寺)



# 古代の地域区分

0 200 400km

凡例

● 国府所在地

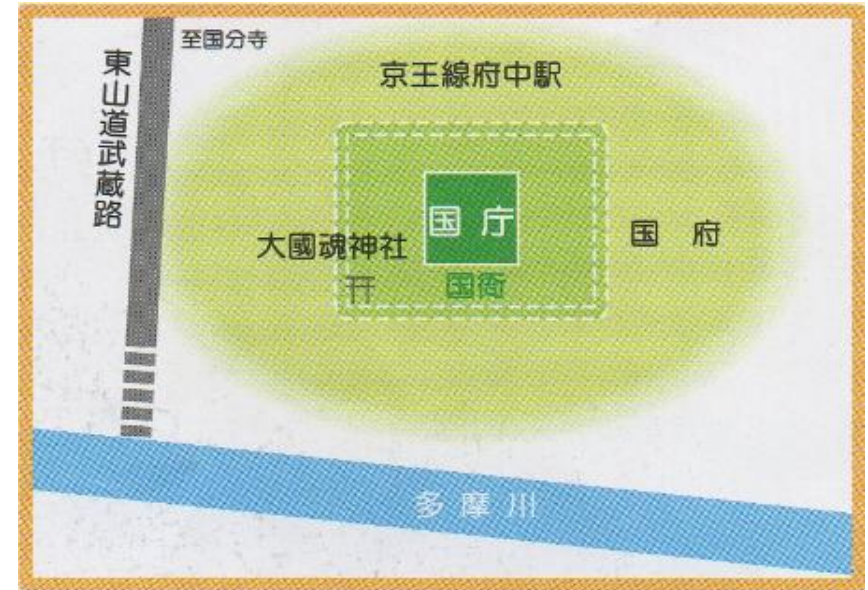


## 武蔵国と郡域

0 20 40km

武蔵国府

現在の府中市



## 武蔵国府のイメージ図

### 国庁・国衙・国府とは？

☆国庁とは？…「国司」という都から来た役人が儀式や政治を行う中心的な役割を担った役所の中枢施設をいいます。

(現代で言えば、東京都庁の知事部局)

☆国衙とは？…国庁の周囲に設けられた国の行政事務を行っていた役所群をいいます。

(現代で言えば、東京都庁の本庁舎全体)

☆国府とは？…国庁、国衙を含めた役所に勤務していた役人の館や、兵士等の宿舎、市、学校、百姓の民家などを含む範囲全体のことをいいます。

(現代で言えば、東京都庁とその周辺の新宿副都心の範囲)



多磨寺は多磨郡の郡寺で、出土した瓦から、創建年代は8世紀初頭とされる



多磨寺の仏堂基壇跡と想定される遺構

## ②多磨寺—たまでら

武蔵国衙の東側には多磨郡の郡名を冠した寺院、「多磨寺」の存在が考えられています。この一帯では国衙の瓦よりも古い瓦が出土するため、多磨寺は国衙に先行して造られた寺院と考えられています。

7世紀末から8世紀初頭にかけて国衙・多磨郡(評)家・多磨寺が計画的に整備されていった

◆武蔵京所廃寺;府中市 宮町2丁目 京所、旧多摩郡。

「日本古代地方寺院の成立」;寺跡は住宅密集地となるが、心礎が地区の基地に現存。現状は近世の宝篋印塔型墓標の台石となっている。心礎は約1.6×1.5mのほぼ円形で、中央に長径61cmの丸みを帯びた六角形の穴が穿たれているという。出土瓦から8世紀初頭の創建とされる。また「多寺」の文字瓦が出土と云う。

なお「日本の木造塔跡」では台石となり、上部破壊、心礎かどうかはやや疑問とする。

○「[京所廃寺塔心礎平面・断面図](#)」(「日本古代地方寺院の成立」より転載)

○「[幻の塔を求めて西東](#)」:心礎は一重円孔式、185×175×50cm、径70×23cmの円孔がある。神社基地にあり。

※この台石が心礎である可能性は大と思われるが、出土地不明、由来不明、後世の上部破壊、後世の加工の加工性(六角の穴)の存在、塔基壇・塔関連遺物の未確認などの要素を考慮すれば、「心礎であるかどうかやや疑問」という見解が妥当と思われる。

○京所地区は六所宮の東に位置し、近世は一貫して六所宮社領であった。この地区の中央に基地があり、「この基地は六所宮所有であり、氏子の基地である」(墓参の方からの聞き取り)と云う。その基地の南の一角に「神主さまの墓所」(聞き取り)と云われる区画があり、神主とはおそらく神主猿渡氏と思われるが、宝篋印塔などが並ぶ墓所が形成されている。現在、珍妙にも入口に鳥居などが建てられているが、それは国家神道による見戯に等しいもので、墓石は宝篋印塔であり、仏式である。

なお当地区では「多寺」「? 磨寺」銘の平瓦・掘込み地業の基壇跡が検出され、寺院址である可能性は高いと思われる。

○[京所概要図](#):「古代武蔵の国府・国分寺を掘る」より

黄色着色部が「神主基地」で此処に心礎がある。緑の線内が一般基地、掘込み地業の基壇跡は「神主基地」に隣接する東側と思われる。

○武蔵京所廃寺推定心礎

[武蔵京所廃寺心礎1](#) [同](#) [2](#) [同](#) [3](#) [同](#) [4](#) [同](#) [5](#) [同](#) [6](#)

○2006/04/22追加:

「武蔵の国府と国分寺 府中市郷土の森博物館ブックレット」より

[京所廃寺空撮](#):南より北方を望む:「ほぼ市街地化するが、その中に基地及び猿渡家基地は残存する。

[京所廃寺文字瓦](#):「多寺」(但し左文字)。「■磨寺」(おそらく多磨寺と思われる。)

○「古代武蔵国府 府中市郷土の森博物館ブックレット」より

[京所廃寺掘込地業](#)(写真):東西18m南北16m(白線内)を約50cm掘り下げ、版築した地業を発掘。

削平のため基壇及び礎石などは不明。しかし掘込地業の存在は基壇上に礎石を据えた仏堂があった可能性が極めて高いものと思われる。但し、平面形から塔ではない仏堂と思われる。

○「府中市史 付編」より:

六所宮猿渡盛房:文化14年(1817)薨去、京所猿渡家基地に文政(1818)元年年記の石碑がある。

とあり、京所の墓所のどの石碑かは未確認であるが、ともかく心礎のある一画は猿渡氏の墓所に間違いのないと思われる。

○2008/08/12追加:「天武・持統朝の寺院経営」

[武蔵京所廃寺掘込地業](#)(発掘図):説明は上の掲載。

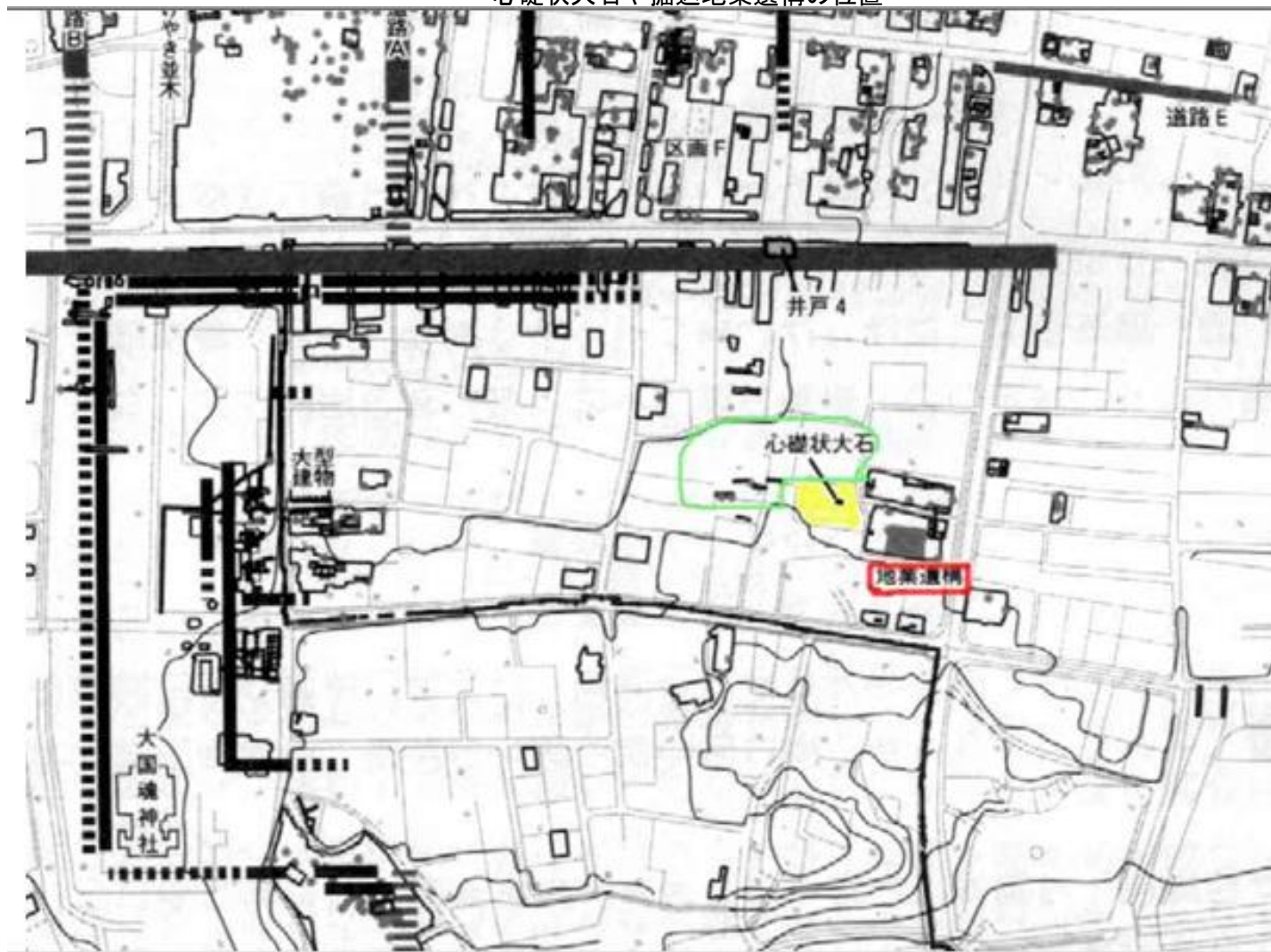
(ホームページ「東国諸国の塔跡」より)

写真の猿渡家墓地が心礎状大石があった場所(その右手に先程のマンションが見える)



(ホームページ「東国諸国の塔跡」より)

心礎状大石や掘込地業遺構の位置



(ホームページ「東国諸国の塔跡」より)



大型井戸の調査風景

### ⑦大型井戸—おおがたいど

国衙北方で発見されている3基の大型井戸の一つです。国衙北方は、湧き水が得やすい府中崖線から1kmほど離れ、本来生活を営むには困難な環境であったと思われます。しかし、こうした井戸の掘削によって、国府のマチは台地の奥までも広く展開していったと考えられます。



以上、府中市発行冊子より

参考ホームページ

<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/shisetu/komyunite/gekijo/kyodo/index.html>

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/act/koko/index.html>